

# 神戸市立博物館 外部評価書(23年度)

## 使命 (要点)

- 多様な神戸文化の特徴と東西文化交流の態様を明らかにし、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- 優れた文化・芸術にふれあう機会を「提供」し、新たな調査・研究を「提案」し、その成果を「発信」する博物館となります。
- 市民・利用者が集い、神戸を愛し、誇りとする拠りどころが得られる博物館になります。
- 震災と復興のなかで得た知見を発信していきます。

## 活動目標

- 1 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします  
文化財を保存・継承していく博物館にします
- 2 すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします
- 3 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします
- 4 すべての人々にやさしい博物館にします

## 活動指針

- 市民が誇れる博物館
- すべての人々に親しまれる博物館
- 地域の文化を支える博物館
- 情報発信をする博物館

※各活動目標に対する外部評価の平均スコアは委員評価(A~D)の平均による

A: 4点、 B: 3点、 C: 2点、 D 1点で算出。

A : 3. 25点以上

B : 2. 50点以上 3. 25点未満

C : 1. 75点以上 2. 50点未満

D : 1. 75点未満

### 自己点検評価による総評

23 年度は、ソウル大学美術館、サントリー美術館といった国内外の美術館と緊密な連携をとり、充実した大型展覧会を開催することができたため、前年度 B 評価だった活動目標・「芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします」の項目を A の評価とした。その他の活動目標の評価は、前年度と同様であった。展覧会に関しては、大英博物館・古代ギリシャ展ではギリシャ・ローマ美術の名品を展示し好評を得、山本二三展は、芸術性の高いアニメーションの原画によって予想を超える来館者をむかえた。和ガラス展は、寄贈速報展として多くの来館者に所蔵作品をおひろめする絶好の機会となった。また、日本絵画のひみつは学芸員の日頃の研究成果を示す意義深い展観であり、平清盛は貴重な文化財にふれる機会を提供した。

学校や地域との連携は例年通り堅調であったが地域との連携は、広報活動の面など例年通りと言え、今後より広く展開し、形骸化・陳腐化しないためにも共催事業の新たな企画立案などを行う必要がある。

また、調査研究については、組織的取り組みが、展覧会事業等の事業量の関係から人的に余裕がなく、課題を残した。計画的、組織的な取り組みが求められる。資料の保存・保全については、予算及び物理的な制約がある中で、対処的な改善努力が行われているが、ハード面も含め日常的な管理が課題として残った。

館全体の設備面については、リニューアル基本計画を策定できた点は評価できる。今後は、基本計画実現に向け、財政当局との協議など努力していくことが求められる。

### 外部評価による総評

23年度の外部評価の結果は4段階評価でB, A, A, Bとなり、21、22年度と同じである。

活動目標のうち、『地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします。』、『文化財を保存・継承していく博物館にします。』については、人的、予算的に余裕のない中で、大変だが、調査研究・資料収集・保存などについて、内容を見直し、計画的にすすめていくことが重要である。

「この問題と関連して、学芸員が地域の歴史情報などを獲得するための調査研究や情報収集のための時間の確保が問題となる。個々の博物館・学芸員は、それぞれの立場からそのための努力をされていることは十分認識しているが、類似施設の学芸員等も含め、学芸員の専門性を保障し、資質の向上を図るため、調査研究や研修のための時間確保の方策について、制度面も含め、具体的に検討する必要があると考える。活動目標・『すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。』は、『平清盛』展など地元根差した特別展や『大英博物館 古代ギリシャ・ローマ展覧』など、海外の名品を紹介する展覧会などを開催することで、幅広い層が来館し、好評を得た点は評価できる。「本館は、阪神間では、大規模な特別展を開催する役割を担った博物館であり、この点ではますます重要性を増していると思われる。」

しかし、その反面、常設展が素通りされることが多く、常設展の充実・リニューアル・展示スペースの拡張などが今後の課題となろう。

活動目標・『芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします。』では、活動内容・「◎市民ニーズを把握し必要な改善を行います」が21・22年度と同様にC評価であり、市民ニーズを把握し、その公開方法も含めて協議し、改善する必要がある。しかし、そのほかの活動内容項目は、全てA評価であり、以前より評価の高い学校との連携の充実に加え、23年度はソウル大学美術館、サントリー美術館といった国内外の美術館と緊密な連携をとり、充実した大型展覧会を開催した点は評価できる。ただ、学校との連携について、「近年、人的にはほぼ限界に近い事業展開を行ってきている。」との状況であれば、ボランティアの活用なども含めて事業を円滑に進める体制づくりをおこなっていく必要がある。

最後に活動目標・『全ての人々にやさしい博物館にします』では、財政当局と協議しつつ予算を確保し、古い建物を活かしながら、ユニバーサルデザインへの対応に向けた人々にやさしい博物館をめざすべく、引き続き努力していくことが求められよう。

## 活動目標 1

### 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします 文化財を保存・継承していく博物館にします

#### 自己点検評価・・・B

全般的には目標がほぼ、達成されたが、以下の2点において、23年度の目標に対して十分な成果が得られていないと考えられる。第一に、23年度は調査研究への組織的取り組みが、展覧会事業等の事業量の関係から人的に余裕がなく、課題を残した。このため、より具体的計画と進捗確認をもって進める必要がある。第二に、資料収集および資料の保存・保全については、予算及び物理的な制約がある中で、対処的な改善努力が行われているが、ハード面も含め日常的な管理の改善課題がある。また、IPMの面以外でも、保全し後世に伝え、そして情報開示の面からも、資料の基礎データの整理と把握も今後迅速にすべき課題である。

#### 外部評価・・・B

- 人員と経費の不足は、どこの博物館においてもほぼ、共通する悩みだが、この悪条件の中でも、館員の皆さんのご努力下、最善の活動が出来たと考えます。人員数と経費の充実を希望してあえて、Bと評価しました。
- 人的にまた、予算的にも余裕がない中で大変だと思いますが、調査研究・資料収集・保存・保全について計画的にすすめていくことが重要だと思う。
- データベースの公開はもう少し努力されることを望みます。アクセスの件数も上昇していますので。
- 今の世の中の状況を考えると予算不足は仕方がないと思います。事業量が多く、人手がかかり、研究が疎かになるのなら、やはり内容の見直しが必要ではないかと思います。十分に調査ができず、効果的な展示方法を考える余裕のないことが、常設展示スペースに反映されているように思いました。
- 多発する自然災害に備えて収蔵環境の整備に力を入れて頂きたい。

## 活動目標 2

すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。

### 自己点検評価・・・A

大英博物館・古代ギリシャ展ではギリシャ・ローマ美術の名品を展示し好評を得た、山本二三展は、芸術性の高いアニメーションの原画によって予想を超える来館者をむかえ、中高生という、これまで来館の少なかった世代に広くアピールした展覧会となった。和ガラス展は、震災で延期となった展覧会の代替展であったが、寄贈速報展として多くの来館者に所蔵作品をおひろめする絶好の機会となった。日本絵画のひみつは学芸員の日頃の研究成果を示す意義深い展覧会であり、平清盛は貴重な文化財にふれる機会を提供した。震災や津波の影響下で、堅調な活動をおこなった。また、ソウル大学美術館、サントリー美術館といった国内外の美術館と緊密な連携をとり、充実した大型展覧会を開催することができた。

### 外部評価・・・A

- 東北大震災で、日本全国が沈んでいる時にこそ、文化の力が大切だと思います。
- 常設展示についてはリニューアルの検討をお願いしたいと思う。
- 秀れた活動を続けられていると思われます。
- 国外にある名品を見るチャンスを与えてもらえることには深く感謝しているが、特別展だけを見て常設のコレクションを素通りして帰る人がほとんどでは「博物館」を名乗る意味がない。「今日見たギリシャの彫刻の影響は神戸にまで及んでいるんだな」と思うようなコレクション紹介を考えて欲しい。
- 海外からの展覧会をはじめ、様々な企画がなされています。
- 常設展示・図書室など小学生には、とても興味深く時間をかけて楽しんでいたので一日館内で過ごすことができる。
- 展示された内容は好評を得ていますが、国際都市神戸は海外からの観光客が多いので日本と神戸への理解を深めてもらうために関係方面へのPR、広報活動も必要だと思う。
- 今年度は大河ドラマの影響もあり、児童や生徒の学習にもつながり、博物館を訪ねる子どもたちが増えたように思われる。

### 活動目標3

#### 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします

##### 自己点検評価・・・A

学校や地域、そして他館との連携は概ね図れている。特に学校との連携は、近年、人的にはほぼ限界に近い事業展開を行ってきている。また、今年度は、ソウル大学美術館、サントリー美術館といった国内外の美術館と緊密な連携をとり、充実した大型展覧会を開催することができた。ただ、地域や同種の他館との連携は、広報活動の面など例年通りと言え、今後より広く展開し、形骸化・陳腐化しないためにも共催事業の新たな企画立案などを行う必要がある。

##### 外部評価・・・A

- サントリー美術館との連携は、東京でも大きな話題となりました。積極的な交流を高く評価します。
- 市民ニーズを把握するとともにその公開方法も含めて協議し、改善して欲しいと思う。
- ボランティアの人々をどう教育し、戦力とするかはどの館もそうであるが、様々な意味で一層の取組が求められると思われる。
- 学校との連携は教育に関わることなので結果を短期間に評価することはできないと思うのですが、限界に近いペースを何年か続けているのであれば受講者の満足度以外の評価軸で採点をしてはどうかと思います。物量での勝負というような印象があり、効果が良く分かりません。
- 積極的に活動されています。
- 「のびのびパスポート」の発行で、神戸市内の小・中学生は身近に博物館を感じ交流しやすい機会をもてる環境にある。映画「ナイトミュージアム」の効果もあり、特に男の子は博物館に興味を持つ傾向が増加したように思う。
- 学校との連携には人的にはほぼ限界に近い・・・とあるが、特に中学校への対応等、ボランティアの活用も含めてさらに考慮する余地はないでしょうか。
- 子どもたちにとって本物体験はとても貴重な学習活動になる。学びの定着を図るためには博物館との連携は欠かせないものとなっている。神戸小学校教育研究会社会科部ではこの活動を他市へも紹介している。

## 活動目標 4

### すべての人々にやさしい博物館にします

#### 自己点検評価・・・B

リニューアル基本計画を策定できた。今後は、基本計画実現に向け、財政当局との協議など努力していく。

#### 外部評価・・・B

- 神戸の顔の一つは、文化であると認められているところです。思い切った投資を期待します。
- 基本計画実現に向け、財政当局と協議し努力してほしいと思う。
- 財政の裏付けなくして実現困難である事から館の取組は当然限界がある。財政の好転を待つしかないだろう。
- 古い建物ならではの良さを残して、使い勝手を向上させるリニューアルに期待します。構造を変えるのは難しいでしょうが、照明などを工夫して展示品が映える空間を期待します。
- ユニバーサルデザインへの対応に向けたリニューアルを進めていく必要性(全ての人々にやさしい博物館)。
- 今後も **KEMS** のシステムを取り入れ環境負荷の低減を目指す(環境にやさしい博物館)。
- 高齢化社会でお金も時間も余裕のあるシニア世代が足を運ぶようなプログラム(ミニ演奏会等)は行えないか。